

## 1 年度のハイライト

### <林 泰成 新学長（第9代学長）が就任>

令和3年4月1日に、林 泰成学長の下に新体制がスタートした。林学長の任期は、令和3年4月1日から令和7年3月31日までの4年間となる。

なお、新体制における理事・監事・副学長は、次のとおりである。

理事兼副学長	中山勘次郎	副学長	渡部洋一郎
理事兼副学長	天野 和孝	副学長	水落 芳明
理事(非常勤)	出口 利定	事務局長兼副学長	矢崎 雅之
監事	山西 潤一	監事(非常勤)	大原 啓資

### <教員就職率、学部教員就職率が全国第1位>

文部科学省が令和4年1月31日に発表した「国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）の令和3年3月卒業者の就職状況」において、本学学部卒業者の教員就職率（大学院等への進学者及び保育士への就職者を除く。）は87.9%で、全国の44大学・学部中、第1位となった。9年連続で5位以内を維持するとともに、平成13（2001）年3月卒業以来20年ぶりの全国第1位となった。

### <令和4年度大学院改革に向けた設置認可申請>

教育委員会や学校現場から本学に寄せられた要望（教科教育及び横断的・総合的な内容を扱う分野の新設、特別支援教育の専門性の強化及び教育課程等の拡充、Society5.0に対応した教員養成、学校運営、学級・学年経営を担うミドルリーダーの育成、様々な悩みを抱える児童生徒に対する相談・支援体制に係る人材の養成等、複雑、多様化する教育現場における諸課題への対応）等を踏まえ、大学院学校教育研究科の更なる機能強化に向けた検討を進めてきた。

この検討内容を基に、令和4年度から専門職学位課程の入学定員を170人から190人に、修士課程の入学定員を130人から20人とする大学院組織の再編に関する構想を策定し、文部科学省への設置認可申請を行い、令和3年6月に認可を受け、令和4年4月からの学生受入に向けて準備を進めた。

### <多様な教員人材育成修学プログラムの整備>

本学と包括的な連携・協力に関する協定を締結した連携協定校に所属する学生で、教職への強い意志・意欲と適性を有し、卒業時に教育職員免許状の取得が見込まれる者に対して、小学校教員としての資質向上と本学大学院への効果的な接続を促す環境を提供することにより、学部及び大学院を見通して計画的に、得意の専門分野を持った高度専門職業人としての小学校教員を養成することを目的とした導入を決定した。

具体的には修学プログラムの連携協定校である秋田公立美術大学と連携確認の上、「英語」、「小学校英語指導法」、「道徳教育論」、「総合的な学習の時間の指導法」の4科目6コマを履修対象科目とし、秋田公立美術大学学生の本学授業への参加方法等についても決定した。

本プログラムは、本学の科目等履修生制度を利用して、連携協定校の3・4年次生の段階から本学の小学校教員免許科目の一部を受講し、本学大学院専門職学位課程に進学することにより、大学院2年間で小学校教諭一種免許状を取得するものである。また、本学大学院教育職員免許取得プログラム制度を活用するため、大学院3年間を使

って他教科の中学校（高等学校）教員免許状の追加取得も可能とするものである。

## ＜「21 世紀を生き抜くための能力」に関するシリーズ本の刊行＞

第3期中期目標期間における主要な目標の一つである「21 世紀を生き抜くための能力+ $\alpha$ 」について、「上越教育大学からの提言」シリーズの続編として、「人間力」を育てる：上越教育大学からの提言6」を、また、これまでの本学の提言を引き継ぐものであるが、いっそう緊急性の高いものとして「ポストコロナと教育—上越教育大学の実践と考察—」を刊行した。

## ＜新型コロナウイルス感染症への対応＞

### （1）新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援

- ① 家計が急変した学部・大学院学生を対象とした授業料免除を実施した。
- ② 様々な影響を受けた学生に対する経済支援と健康管理支援を目的として、通常 400 円のメニューを半額の 200 円で提供する「学生応援 200 円ランチ」を企画し実施した。
- ③ クラスター発生防止策として、感染の疑いや濃厚接触等により一時待機が必要とされる学生を想定し、いつでも待機生活を始められる部屋を昨年度から引き続き 16 室を世帯用学生宿舎に整備した。
- ④ 「課外活動団体等の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動指針」を策定し、感染拡大防止に努めた。

### （2）入試方法等の変更

#### 【学部入試】

感染防止対策を徹底するため、学部入試における感染防止対策方針を策定し、入学志願者に対して留意事項を、ホームページや受験者心得で周知し、全学的な連携体制の下で感染防止対策を講じて実施した。

なお、試験方法等の主な変更内容は以下のとおりである。

- ① 新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため、一般選抜（前期日程・後期日程）において追試験を計画した。（追試験を行うことなく無事に実施することができた。）
- ② 前期日程の実技検査（音楽・美術・体育のうちから 1 科目を選択）のうち、「体育」については 3 種目（反復横跳び、立ち三段跳び、長座体前屈）から 2 種目（立ち三段跳び、長座体前屈）に変更した。

#### 【大学院入試】

本学会場とする試験を原則として行わないものとし、筆記試験の代替として、試験を実施するコース（領域・分野）ごとに以下のいずれかを実施するとともに、口述試験をオンライン面接により実施した。

- ① 筆記試験の代替として、事前課題の提出（事前に課題を送付し、期限までに提出する方法）を課す。
- ② 筆記試験に代えて評価する項目をあらかじめ設定し、口述試験の中で、これを試問する。

## ＜附属学校：由緒あるスタインウェイ社製ピアノの復活＞

本学附属小学校には、高田師範学校時代から世界 3 大ピアノの一つとされるスタインウェイ社製の由緒あるピアノが受け継がれてきたが、経年による損傷などもあり永い年月教室の片隅に眠ったままとなっていた。

そこで、令和 3 年度の附属学校開講 40 周年を記念し、「古いものや歴史を大切にしながら新しい時代を切り拓いてほしい」という願いを込め、眠ったままのピアノを修復し名機の音色に親しんでもらおうと【温故知新プロジェクト】を立ち上げた。

このプロジェクトの趣旨に対し、附属学校を支援くださる方々から、予想を超える多くの賛同を得て、令和 3 年秋にスタインウェイ社製ピアノは見事に修復され、開校 40 周年記念式典においてその美しい音色が披露された。